

薬学部・薬学系研究科

I	研究水準	研究 10-2
II	質の向上度	研究 10-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度教員一名当たりが発表した学術論文・著書は 5.5 件と多く、また特許出願・取得の件数も、目覚しいものがある。さらに、国際交流、学協会や産業界への貢献や連携も極めて活発である。研究資金の獲得状況については、共同研究や受託研究を活発に実施し、外部から獲得した研究資金額は平成 19 年度に 30 億円を超えたことは、優れた成果である。

以上の点について、薬学部・薬学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、薬学部・薬学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、研究成果の状況について、多点認識型不斉触媒の開発、自然免疫関与タンパクの構造解明、細胞の新制御機構等一級の成果や国際的インパクトが大きく被引用回数が著しく多い研究業績が多数ある。実際、研究業績リストの論文は、いずれも卓越した成果と判定される。リストの業績数は限定されているが他にも優れたものがある。国内外の有名な賞の受賞や功績表彰が多く、結果として大きな外部資金の獲得や多数の優秀な研究者の輩出につながっている。社会、経済、文化面では、上記の研究に基づくタミフル等の医薬品の開発、生体可視化プローブの開発等有用性の高い成果があることなどは、優れた成果である。

特に、米科学誌「Science」や「Cell」に掲載された論文をはじめ数々の重要な成果を上げている。平成 17 年 3 月に日本学士院賞、平成 18 年 11 月に紫綬褒章を受賞の対象となる論文等世界をリードする研究が行われている。総被引用回数が 10,000 回を超える研究者が 6 名にもものぼり、世界中から注目される研究を推進していることが端的に示されているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、薬学部・薬学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した

結果、研究成果の状況は、薬学部・薬学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。